

日本河川・流域再生ネットワーク <http://www.a-rr.net/jp/>  <https://www.facebook.com/JapanRRN>

「日本河川・流域再生ネットワーク (JRRN)」は、河川再生について共に考え、次の行動へ後押しする未来志向の情報を交換・共有することを通じ、各地域に相応しい河川再生の技術や仕組みづくりの発展に寄与することを目的に活動する団体です。またアジア河川・流域再生ネットワーク (ARRN) の日本窓口として、日本の優れた知見をアジアに向け発信し、海外の素晴らしい取組みを国内に還元する役割を担います。

目次	Pages
➤ JRRN 事務局からのお知らせ	1
➤ 会員寄稿記事	3
➤ 研究・事例紹介	7
➤ JRRN 会員・ARRN 関係者からのお知らせ	10
➤ 会議・イベント案内 & 書籍等の紹介	11

JRRN 事務局からのお知らせ (1) JRRN Activity Report

平成 28 年度 第 1 回 JRRN 理事会開催 及び 「JRRN 年次報告 2015」 発行



2016 年 6 月 3 日 (金) に、日本河川・流域再生ネットワーク (JRRN) の平成 28 年度 第 1 回理事会が開催され、JRRN 定款に基づき以下に示す議案について決議を行い承認されました。

平成 28 年度 第 1 回 JRRN 理事会

- 開催日時： 2016 年 6 月 3 日 (金) 16:00-17:30
- 開催場所： (公財) リバーフロント研究所 会議室
- 議案：
 - 議案第 1 号 平成 27 年度 事業報告及び収支決算
 - 議案第 2 号 平成 28 年度 事業計画及び収支予算
 - 報告第 1 号 事務局の組織及び運営
 - その他
- 出席者
 - 代表理事 土屋 信行
 - 理事 伊藤 一正
 - 理事 白川 直樹

(佐合純造理事は定款第 26 条に基づき書面表決)

その他協議事項としては、本年 11 月に JRRN が設立 10 年を迎えることを踏まえ、今後の更なる発展に向けた活動内容や組織のあり方などについて活発な議論が行われました。

また、本理事会での過年度事業報告の承認を経て、JRRN の平成 27 年度 (2015 年 4 月～2016 年 3 月) の活動を取りまとめた「JRRN 事業報告 2015」を作成し公開しました。(A4 版、全 4 ページ)

平成 28 年度も、河川再生に関わる情報共有基盤の更なる強化、河川再生の普及・啓発に向けた行事開催や調査研究、また国内外関係団体との協働活動に取り組み、全国の川づくりの担い手が繋がり、新たな創発を生み出す川づくりのプラットフォームの役割を担ってまいります。



「JRRN 事業報告 2015」は以下から (PDF 816KB)

<http://jp.a-rr.net/jp/activity/annual/48>

(JRRN 事務局・和田彰)

JRRN 事務局からのお知らせ (2) JRRN Activity Report

「第 3 回 小さな自然再生現地研修会@福岡・上西郷川—7/29 (金)」ご案内

ニュースレター5月号でのご案内の通り、本年度は「小さな自然再生」の普及促進に向けた3回の現地研修会を開催することとなり、その第1回目(第3回)の研修会を、**7月29日(金)、福岡県福津市・上西郷川**で行うことが決まりました。

上西郷川は、「水辺の小さな自然再生事例集」(2015年3月発行)の表紙を飾った、市民とのつながりが目に見える素晴らしい河川で、「上西郷川日本一の郷川をめざす会」(地元市民・九州大学・福津市の連携組織)が主体となって、川づくりへの提案や環境学習などの取組を積極的に実施しています。

今回の研修会では、「小さな自然再生」に関する座学に加えて、「上西郷川日本一の郷川をめざす会」の皆様のご協力を得て、上西郷川現地にて簡易的な水制の施工体験を行う予定です。参加者による施工体験はこれまでの研修会でも初めての試みとなり、大変有意義な研修になると思いますので、皆様のご参加をお待ちしております。

参加申込み方法については、研修内容の詳細が決まり次第、ご案内をさせていただきます。

なお、本活動は(公財)河川財団の河川基金の助成を受けて実施しています。

(JRRN 事務局・後藤勝洋)



上西郷川

第 3 回 「小さな自然再生」現地研修会 福岡県福津市・上西郷川

- 日時：2016 年 7 月 29 日 (金)
- 主催：「小さな自然再生」研究会 (「小さな自然再生」事例集編集委員会)
- 共催：上西郷川日本一の郷川をめざす会、JRRN ※調整中
- 会場：福岡県福津市内会場 / 上西郷川 ※調整中
- 対象：小さな自然再生に関心のある方々
- 参加費：無料
- プログラム(案)：※調整中

午前：「小さな自然再生」に関する座学研修

午後：上西郷川にて現場研修(簡易的な水制の施工体験を予定)

- 参加申し込み：研修内容の詳細が決定次第、ご案内致します



上西郷川での施工体験のイメージ (提供：林博徳・九州大学大学院)

JRRN 会員寄稿 (1) JRRN Member Contribution

「第11回隅田川クリーン大作戦」参加報告 ～弊社から過去最多人数が参加しました～

寄稿者：島倉 由美（株式会社建設技術研究所 広報室・JRRN 会員）

平成28年6月18日（土）、第11回隅田川クリーン大作戦が開催されました。この活動は、隅田川流域クリーンキャンペーン実行委員会（土屋十囀 実行委員長）主催で、隅田川沿川の美化活動に取り組む市民団体、東京都行政関係者および隅田川に関心のある一般市民などが隅田川沿いを歩きながら清掃活動を行うものです。弊社は、平成19年から協賛企業としてこの活動に参加しています。今年の全体参加者数は232人、弊社からはこれまでに最も多い48人（社員やその家族も含む）が参加しました。

コースは隅田川の中流にある桜橋の①右岸・②左岸から浜町公園に向かうコース、下流にある③石川島公園と④勝鬃橋から浜町公園に向かう全4コースがあります。

開催当日は、梅雨の時期にも関わらず好天に恵まれ、主催者のお声かけで参加者は水分補給をしながらゴミを拾っていました。

隅田川テラス（隅田川両岸に沿って整備された親水テラスの総称）に落ちていたゴミのうち一番多いのはたばこの吸い殻です。また花壇の隙間には、空のペットボトルや空き缶、食べ物の空袋などが捨てられていました。一番驚いたのは、隅田川に自転車や扇風機などの粗大ゴミが捨てられていたことです。これらの粗大ゴミも後援している東京都第一建設事務所の清掃船で拾い上げられました。

このように多少のゴミは落ちているものの、全体をととしては、行政や市民などの手が行き届いており、大変きれいな状況でした。

弊社参加者の主な感想を紹介します。

- ・ 今年は昨年よりゴミがあり（主にタバコの吸い殻や木の葉や枝、お菓子などの包み紙）、子供はビニール袋にゴミが溜まっていくのが嬉しくて一生懸命拾っていました。歩いている途中で、川に稚魚やカニ、クラゲがいたため、その都度、スタッフの方が丁寧に説明してくれました。クラゲが歩道に何匹もいたことは驚きでした。潮の干満の関係で歩道に打ち上げられたそうです。
- ・ 隅田川を3時間かけて歩き、とても整備されていて歩きやすい運動にもなりました。たばこのゴミが多いことに気付かされたり、橋の下などの見えないところにゴミが多いことにマナーの悪さを感じました。
- ・ 東京都第一建設事務所の方から、清掃船の説明があり、ほぼ毎日、川の清掃を行っていて大量のゴミが回収されているということでした。清掃船の説明を聞きながら、川面を見ると、小さな魚が沢山いる事を発見し、川をきれいにする取り組みの大切さを改めて感じました。
- ・ 社会貢献としてとても有意義だと思った。

私自身、毎回参加して実感するのが、隅田川は歩いていてとても楽しい空間だということです。ゴミは少なく、花壇は手入れされていて季節の花が咲き、たくさんの個性的な橋が架かっています。歴史看板が点在し、カラフルなブロック塀や休憩スペースにもなるトンネルなどがあり様々な工夫がなされています。このような大都市の貴重な川がいつまでもたくさんの人々の憩いの場所となるように、来年も本活動に参加します。



清掃船



参加した弊社メンバー

7月



茨城県竜神川のダム湖



群馬県猿ヶ京から見る赤谷川



あの日のあの川 リレー日記 ～第18話～



あの日のあの川
リレーDiary

みなさんはどこの川でどんなことをした記憶がありますか？幼少期や青春時代に体験した川での記憶を日記として掘り起こして語るコーナーです。リレー形式で毎回次の人にバトンをつなぎます。

第18話主人公 斉藤優生

(筑波大学理工学群工学システム学類 白川(直) 研究室『川と人』ゼミ)

(■川ガール・□川系男子)

(出身地を流れる川：千葉県江戸川)

「川を飛ぶ」

いつのこと？： 大学生

どこの川？： 竜神川、赤谷川、利根川

ゼミに入って早3ヶ月。「あの日あの川」とは何ぞやという状況であれよあれよという間に担当になった。「川の何気ないことを書けばいいんだよ」というようなアドバイスをいただいたものの、私は文章を書くのが苦手なので上手く伝えられるか不安が募っている現状である。

川の思い出なんてそんな大層なものは無いと思っていたが、こうして何を書こうか記憶をたどってみると幼少期から今まで、小さな思い出が沢山蘇ってきた。記憶に残るか残らないかくらい幼い時の川での魚釣りや、電車に乗るたびに渡る近所の汚くて大きい川、旅行中に迷子になった時に友人と偶然見つけて涼んだ川。自分が思っていた以上に川の思い出はあった。その中でも今回はある3つの川の思い出を記そうと思う。

突然だが、私には大学生になってからハマったことがある。バンジージャンプだ。きっかけは2つある。1つ目は茨城県の竜神大吊橋のバンジージャンプだ。折角茨城に住んでいるのだからと勢いで友人たちと行った。

2 つ目はマンネリ化してきた（よく言えば安定してきた）大学生活に何か刺激が欲しいと思ったことだ。

1 回目に飛んだ竜神大吊橋は竜神川をせき止める竜神ダムのダム湖に架かる橋だ。全長 375m、高さは約 100m もある。これは吊り橋としては本州最長で、バンジージャンプの高さとしては日本一だ。100m の高さからダム湖を見下ろすとそれは真っ黒で、風で水面が揺れなければ水なのかコンクリートなのかも分からないようで、吸い込まれてしまいそうだった。

2 回目は群馬県にある猿ヶ京というところだった。ここは赤谷川という川に架かる真っ赤な橋が印象的だった。紅葉で赤や黄色に染まった木々と真っ赤な橋、そしてエメラルドグリーンの川。“飛ぶ”ことだけでなく景色も楽しむことができる、そんな場所だった。

そして 3 回目は前回と同じく群馬県であったが、今度はみなかみという場所だ。利根川にかかる諏訪峡大橋から飛んだ。普段目にする茨城県と千葉県の県境の利根川と違って上流の利根川の水は澄んでいて同じ川とは思えないほどだった。河川敷などはなく、大きな岩がゴロゴロと転がっており、川の水がその隙間を縫うように飛沫をあげながら流れていた。水量は決して多くはなく川の流れもそこまで速いわけでもない。しかし岩に当たって砕ける水しぶきを見ていると、自然のパワーを感じると同時にそのパワーに飲み込まれてしまいそうなそんなちょっとした恐怖にも似た感覚を抱いた。

「5・4・3・2・1・バンジー！」

掛け声とともに誰に背中を押されるでもなく自分の意思で前へ飛び出した。足を踏み出せば当たり前に地面がある、そんな日常から、足を踏み出しても何もない、非日常へ飛び込んだ瞬間だった。物凄い速さで近づいてくる水面。耳を切る風の音。目から耳から入ってくる自然の“圧”で叫び声など出なかった。川の中の生き物を狙って急降下する鳥はきっとこんな感覚なのだろうと、落ちていく瞬間に漠然と感じた。



日本にはとても多くの川がある。そしてそれぞれの川が四季折々のそれぞれの表情を見せてくれる。綺麗な川、汚い川、大きい川、小さい川、一体いくつの川があるのだろうか。どんなに多くの川があっても一生の中で私の記憶にとどまる川は僅かだろう。記憶にとどまらないほど当たり前に身近にある川は私の日常の一部であるが、私がしたバンジージャンプや、その他にも様々なレジャーを作り出す川は非日常でもある。そんな二面性を持つ川を通して日常と非日常をこれからも感じ、刺激を受け続けていきたい。

（次は平尾真菜さんにバトンを託します）

水辺からのメッセージ No.86

岡村幸二 (JRRN 会員)

御所沼の風景：

空間を越え遠方の橋に目をやり我が身を御所沼の中に置く



撮影：2015年6月（茨城県古河市・古河総合公園）

◆古河の履歴を紐とき新しい風景をつくる

古河総合公園の地はかつて古河公方の鴻ノ巣御所のあった地ですが、明治・大正時代には渡良瀬川につながる御所沼という荒地となりましたが、一時は食糧増産で水田となったようです。

◆天神橋の上から眺めるエコパーク

古河総合公園には開設当初から“パークマスター”という市民に開かれた公園をマネジメント管理するランドスケープの専門管理者がいましたが、残念ですが今はいなくなりました。

 JRRN 会員皆様からの寄稿記事を募集しています！

旅先で見かけた水辺の風景や思い、水辺再生に関わる様々な活動報告、また河川環境再生に役立つ技術等、JRRN 団体・個人会員皆様からの寄稿記事をお待ちしています。（JRRN 事務局）

研究・事例紹介 (1) Research and Project Report

豊田市岩本川 ふるさとの川づくり 本格始動

寄稿者：伊藤 匠（一般社団法人 ClearWaterProject・JRRN 団体会員）

川と子どもはセット

ホトケドジョウ、ニシシマドジョウ、カワヨシノボリ、カワムツ、カマツカ、オイカワ、アブラハヤ、ドジョウ、スジエビ、ギギ、アユ、アメリカザリガニ、ブルーギル、オオクチバス、ウシガエル、タイリクバラタナゴ、スジエビ、イシガメ、ヌマガエル、トノサマガエル、ハグロトンボ、シユレーゲルアオガエル(鳴き声だけ)。

私が去年、愛知県豊田市の岩本川に通うようになってから採ることのできた生き物。小さな自然再生に関連して、プライベートで、もう何回遊んだかしれないが、それでももっといるかもしれないと思い、岩本川に入るのをやめられない。おそらく、ここ 1 年で一番多く岩本川に入っているのは私ではあるまいか。

しかし、私がどうしても見つけることができなかった生き物、それは「子ども」。どんなにたくさん生き物が棲んでいても子どもがいなければ豊かな川とは言えない。川で遊ぼうとして稀に先客の子ども達がいったりすると心底うれしいものだ。もしかしたら、ネコギギやイタセンパラを見つける時よりうれしいのではあるまいか。

と、個人的にはこんな視点でこの岩本川の四季を見ながら、ふるさとの川づくり事業に関わっている。

昨年度は意識を共有するための準備期間

昨年、「小さな自然再生」事例集編集委員会による第 1 回現地研修会の場となっ



た旨、住民懇談会で報告すると会場がどよめいた。少なからず住民の皆さんのテンションは上がったと思う。研修会参加者の皆様には様々なご意見を頂き、厚く御礼申し上げる。

昨年度は計 3 回の住民懇談会と計 2 回の川遊び「岩本川探検隊」を開催して岩本川にまつわる昔話や思い出をお聞きし、岩本川へ住民の皆さんの意識が集まるような期間とした。どこそこまでアユが上ってきていた、ウナギを捕った、あそこには水車があったと、興味深く面白いお話をたくさん聞くことができた。川が地元の方々にとって誰もが想起できる共通の思い出、財産であるのだなあと再認識することができた。



一方、今の若いご家族や、転入されてきた方々にとっては、思い出を共有できる対象になっていないこともわかった。過去の水害を契機にコンクリート護岸化され、大人も子どもも降りられないし、登れない川に

なった。結果、川への興味関心は薄れ、岩本川で遊んだことはない、生き物がいるとは想像しなかった、というような声が多い。

そのため、子ども達や若い家庭に川遊びのきっかけを持ってもらうため「岩本川探検隊」を近隣の子育て世代を中心に募集して実施した。

魚はヌルヌルしている、魚は跳ねる、川の水は冷たい、川底の砂はサラサラしている、魚はなかなか釣れないなど、子供たちはそれぞれの感性をフル稼働して楽しんでいただけたようだった。実施においては地元自治体の皆さんの全面的なご協力を頂いた。



岩本川未来希望図

懇談会と探検隊を通じ浚渫後の岩本川を「子どもが遊ぶ川」「いろんな生き物が棲む川」「みんなが憩える川」にするという未来希望図をまとめることができた。行政側が実施するもの、住民側でできるものを分け、住民側でできる作業を洗い出す。JRRNの現地研修会でも参加者から提案のあったようにまずはゾーニングして、活動のベースとなる場所を作り、そこから上・下流へできることから始める。



岩本川独自の特異性

岩本川での取り組みの特徴は大きく二つ。まず1つ目は、浚渫した後の川を対象としている点。2つ目は発端が行政側からである点。

1点目。先述の水害の経験もあり、防災面への住民の方々の意識は強い。周囲の地質上土砂が溜まりやすい川であるため、堆積した土砂を浚渫し「きれいに」することは住民の方々にとって重要なのだ。地元の声と、河川管理上の安全性が低下している現状から、数年度かけて土砂の浚渫をすることになった。



2点目。この取り組みは地元住民からの要望ではなく、豊田市矢作川研究所からの声掛けを発端にしている。矢作川研究所は、川の生き物、川と人のつながりなどを調査・研究している全国的にも唯一の市営の研究機関。組織上は市河川課の所管であるため、浚渫と自然再生が同じ河川管理者によるという構造を有している(豊田市第2次地域経営戦略プラン WELOVE とよたの推進 ふるさとの川づくり事業として)。

浚渫と多自然化。一見すると矛盾を抱えているように見えなくもない。私も正直なところ、初めはハテナマークだった。現状でたくさん生き物が棲んでいるならそれでいいではないか、と。しかし、皆さんのお話を聞くうち、防災との両立、その他子どもたちが遊べないという構造の問題などを知って、これは新しいモデルケースになるような気がしてきた。

河川管理者が防災一辺倒ではなく、川を人々の憩いの場、多様な生き物が棲む生態系の一部であるという見方を有しているように感じる。防災と多自然は共存できるものとして管理者側からそのことを訴えていく新しい試みと言えよう。小さな自然再生では、河川管理者との調整が大きなハードルとなるケースが多いが、その点、豊田市は恵まれていると言える。ただ他の事例が市民発案というエネルギーで進むことができた点は留意すべきである。地元住民、市民がそれをどう受け止め、我が事として関わっていけるかが今後のポイントになろうかと思う。

まずはやってみよう!

6月18日に今年度の初会合が開かれた。キーワードは「まずはやってみる!」。



住民主体で継続してほしい取り組みなので、住民側の受け皿となる団体を作ることに。また岩本川は川筋が地区境となって扶桑町と百々町が隣り合っている。

これまでは扶桑町にて住民懇談会を開催してきたが、今後は百々町の方々と一緒に進めていきたい。各町の子ども会の役員さん、積極的に動いて頂けそうな方などにご参集いただいた。



ベースとなる場所に、仮設階段を設置し、人が歩いて作業ができる岸辺を土嚢で造成。その他置き石や丸太で水制工、U字溝や間伐竹で漁礁作り。これらの作業内容からできる事を決めていく。

会長さん1名、副会長さん2名をお願いし、工場を経営されている方には工具など使ってもOKなどの申し出も頂く。その他、事業の期間について、予算について、参加の枠組みについてなど。具体的なご質問も頂いた。

準備を経て、実作業へ

7月には初となる川づくり体験を実施して、8月には岩本川探検隊を実施予定。その後、変化を観察しつつ秋にはメンテナンスを兼ねた第2回川づくりを予定。

初めての試みで、全てが手探りだが、だからこその面白さもある。助走期間は豊田市河川課、矢作川研究所がサポートしつつ、弊社も微力ながらお手伝いをさせて頂く。

希少種が戻ってきたか?

余談だが、昨年の冬ぐらいから、岩本川に降りて川遊び?水遊び?に興じている子どもたちがいるという目撃情報が頻出。浚渫工事で遊び場が削られると昨年度、浚渫の終わっている下流へと遊び場を移動し遅く遊んでいるようだ。探検隊などの効果か否か。どちらかといえば、自発的な川遊びの方が嬉しいのだが。

※敬称略

JRRN 会員・ARRN 関係者からのお知らせ (2016年6月末まで提供分) Information from member

【JRRN 会員からの提供情報】

■ フィールドシンポジウム in 櫛田川 (7/25 開催)

応用生態工学学会名古屋よりフィールドシンポジウムのご案内を頂きました。

■日時：2016年7月25日(月)
9:00~16:00

■場所：櫛田川(三重県)、津商工会議所(三重県津市)

■申込み期限：7/15(金)

◆詳細は以下参照

<http://jp.a-rr.net/jp/news/member/2436.html>



【JRRN 会員からの提供情報】

■ 第189回 河川文化を語る会 (7/14 開催)

公益社団法人日本河川協会より第189回 河川文化を語る会『立山曼荼羅に表徴された常願寺川水系の水神信仰』のご案内です。

■日時：2016年7月14日(木)
15:30~17:00

■場所：とやま自遊館(富山市湊入船町)

◆詳細は以下参照

<http://jp.a-rr.net/jp/news/member/2454.html>



【JRRN 会員からの提供情報】

■ 第24回里川文化塾 (7/31 開催)



ミツカン水の文化センター第24回里川文化塾『丘陵地を水田にした熱意の結晶「二五穴」-100年経っても現役のトンネル用水路を巡る』のご案内を頂きました。

■日時：2016年7月31日(日) 9:00~17:00

■場所：千葉県君津市・小櫃川他

◆詳細→ <http://jp.a-rr.net/jp/news/member/2460.html>

【JRRN 会員からの提供情報】

■ 鞍瀬塾・第45回公開講座 (7/30 開催)

鞍瀬塾事務局より第45回公開講座『土木研究所出前講座：河川の生き物に関する話』のご案内です。

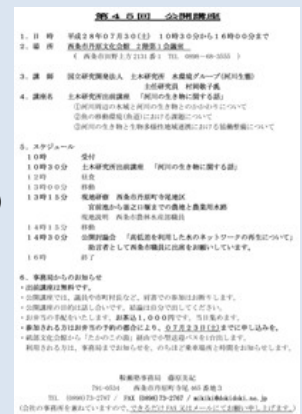
■日時：2016年7月30日(土)
10:30~16:00

■場所：西条市丹原文化会館(愛媛県西条市)

■参加費：無料

◆詳細は以下参照

<http://jp.a-rr.net/jp/news/member/2464.html>



【海外からの提供情報】

■ 「ECRR (欧州河川再生センター) 最新ニュースレター」ご紹介

ECRR (欧州河川再生センター) の最新会報 (2016年5月号) が事務局より届きました。

本号では、欧州河川再生会議の概要報告、本年の欧州河川賞に輝いたスペインの Segura 川の実績などが紹介されています。

◆詳細は以下参照

<http://jp.a-rr.net/jp/news/member/2443.html>



【海外からの提供情報】

■ 「RRC (イギリス河川再生センター) 最新会報」ご紹介

RRC (イギリス河川再生センター) の最新会報 (2016年6月号) が事務局より届きました。

本号では、第17回 RRC 年次講演会レビュー記事、英国環境庁の洪水管理モデル評価と適正ツール選択方法等が紹介されています。

◆詳細は以下参照

<http://jp.a-rr.net/jp/news/member/2457.html>



会議・イベント案内 (2016年7月以降)

Event Information

(国内の河川・流域再生に関する主なイベント)

※前頁でご案内した行事は本欄では掲載していません。

■ 応用生態工学会 第20回全国大会

○日時：2016年9月2日(金)～4日(日)
 ○主催：応用生態工学会
 ○場所：東京大学本郷キャンパス(東京都文京区)
<http://jp.a-rr.net/jp/news/event/2368.html>

■ 第16回川に学ぶ体験活動全国大会 in 琵琶湖・淀川流域圏

○日時：2016年9月3日(土)～4日(日)
 ○主催：第16回川に学ぶ体験活動全国大会実行委員会
 ○場所：摂南大学 寝屋川キャンパス (大阪府寝屋川市)
<http://jp.a-rr.net/jp/news/event/2351.html>

■ 第9回いい川・いい川づくりワークショップ

○日時：2016年9月10日(土)～11日(日)
 ○主催：いい川・いい川づくり実行委員会
 ○場所：高梁市文化交流館(岡山県高梁市)
<http://jp.a-rr.net/jp/news/event/2370.html>

■ 皆様からのイベント情報提供をお待ちしています！

全国で河川再生に関わる様々な行事が開催されています。ローカル情報のPRや共有を目的に、皆様からの情報提供をお待ちしております。

(海外の河川・流域再生に関する主なイベント)

- 2016.6.28-7.1 (リヨン/フランス) 9th Int. Conference NOVATECH
- 2016.7.27-29(リエージュ/ベルギー) 4th IAHR Europe Congress
- 2016.8.21-26(仁川/韓国)12th International Conference on Hydroinformatics
- 2016.8.29-31(コロンボ/スリランカ) 20th Cong. of IAHR Asia Pacific Division
- 2016.9.12-14(ニューデリー/インド) 19th International Riversymposium
- 2016.9.19-22(Stuttgart/ドイツ) 13th Int. Sympo. on River Sedimentation
- 2016.9.20-23(Krakow/ポーランド) Int. Conference 2016; Towards the Best Practice of River Restoration and Maintenance
- 2016.10.8-13(ブリスベン/オーストラリア) World Water Congress & Exhibition

書籍等の紹介

Publications

■ できることから始めよう 水辺の小さな自然再生事例集 (2015.3 発刊)

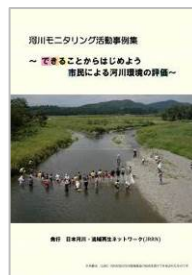
- ・監修：玉井信行 東京大学名誉教授 / JRRN 顧問
- ・編集：「小さな自然再生」事例集編集委員会
- ・デザイン：本間由佳 鶴川女子短期大学
- ・発行：日本河川・流域再生ネットワーク (JRRN)
- ・出版年月：2015年3月



市民が河川管理者と連携して日曜大工的に取り組む「小さな自然再生」の事例集です。小さな自然再生の専門家の方々、専門知識の社会への橋渡しの専門家、そして有志の若手研究者や実務者で協働制作しました。

■ 河川モニタリング活動事例集～できることから始めよう 市民による河川環境の評価～ (2014.3 発刊)

- ・監修：白川直樹 筑波大学准教授 (JRRN 理事)
- ・執筆協力：河川再生に携わる市民団体や行政機関
- ・編集：JRRN 事務局、筑波大学白川(直)研究室
- ・発行：日本河川・流域再生ネットワーク (JRRN)
- ・出版年月：2014年3月



市民が主体的に取り組む河川環境のモニタリング活動の実態を調べ、各地のモニタリング活動事例や市民による河川モニタリング活動の更なる活性化に向けたヒントを紹介しています。

■ 上記冊子の「印刷製本版」入手方法

※PDF版はこちらから：<http://jp.a-rr.net/jp/activity/publication/>

JRRN 事務局までご連絡ください。送料のみご負担頂いた上で、無料で提供致します。(JRRN 会員限定)

JRRN 会員募集中 JRRN membership

■ JRRN の登録資格 (団体・個人)

JRRN への登録は、団体・個人を問わず**無料**です。市民団体、行政機関、民間企業、研究者、個人等、所属団体や機関を問わず、河川再生に携わる皆様のご参加を歓迎いたします。

■ 会員の特典

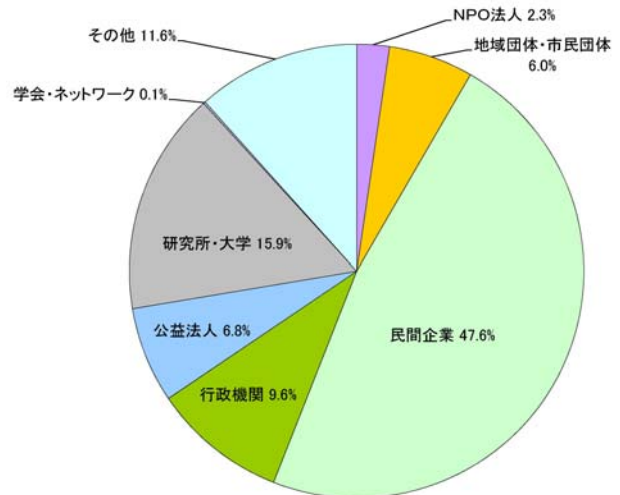
会員登録をされた方々へ、様々な「会員の特典」をご用意しています。

- (1) 国内外の河川再生に関するニュースを集約した「JRRN ニュースメール」が週 1 回メール配信されます。
- (2) 国内外のセミナー、ワークショップ等の開催情報が入手できます。また JRRN 主催行事に優先的に参加することが出来ます。
- (3) 必要に応じた国内外の河川再生事例等の情報収集の支援を受けられます。
- (4) JRRN を通じて、河川再生に関する技術情報やイベント開催案内等を国内外に発信できます。
- (5) 韓国、中国をはじめとする、ARRN 加盟国内の河川再生関連ネットワークと人的交流の橋渡しの支援を受けられます。

■ 会員登録方法

詳細はホームページをご覧ください。

<http://www.a-rr.net/jp/member/registration.html>



2016 年 6 月 30 日時点の個人会員の所属構成
(個人会員数 : 739 名、団体会員数 : 60 団体)

※6 月の新規入会数 : 個人会員 4, 団体会員 0

JRRN 会員特典一覧表 (団体会員・個人会員)

提供サービス	JRRN 個人会員	JRRN 団体会員	非会員 (一般)
1 ホームページへのアクセス及び記事へのコメント入力 ※1	◎	◎	◎
2 ホームページ「イベント情報」欄でのイベント掲載 ※2	◎	◎	◎
3 ニュースメール(週1回)の配信 ※3	◎	◎	×
4 Newsletter(毎月)及び年次報告書(年1回)等の発刊案内メールの配信 ※3	◎	◎	×
5 JRRN/ARRN主催行事の優先案内・優先参加 ※4	◎	◎	×
6 国内外の河川再生関連情報・技術収集や専門家・組織紹介の支援 ※5	◎	◎	×
7 ホームページ「会員からのお知らせ」内及びニュースメール「会員からのご案内」欄で団体が関わる行事・出版物・製品等の案内の掲載 ※6	△※7	◎	×
8 ホームページ「会員登録状況」「国内団体」内及び年次報告書内で団体名の掲載	×	◎	×
9 ARRAN活動に関連する英語ニュース(ARRN Newsletter等)の不定期配信 ※8	×	◎	×
10 JRRN及びARRNが保有する国内外専門家・団体等との連携等の支援 ※9	×	◎	×

会員特典詳細はウェブサイト参照 : <http://www.a-rr.net/jp/member/benefit.html>

【お気軽にお問い合わせください】

日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN) 事務局



〒104-0033 東京都中央区新川 1 丁目 17 番 24 号 新川中央ビル 7 階 (公財) リバーフロント研究所 内

Tel:03-6228-3862 Fax:03-3523-0640 E-mail: info@a-rr.net

URL: <http://www.a-rr.net/jp/> Facebook: <https://www.facebook.com/JapanRRN>

JRRN 事務局は、「アジアにおける河川再生のためのネットワーク構築と活用に関する研究」の一環として、公益財団法人リバーフロント研究所と株式会社建設技術研究所国土文化研究所が公益を目的に運営を担っています。

